

■北海学園大が5戦全勝で単独優勝。2部は北海道科学大がV。第8節

第50回北海道学生選手権第8節は10月14日、札幌市円山競技場で1、2部の各1試合を行った。1部は、前節に3年ぶり9回目の優勝を決めていた北海学園大が北海道大に17-0で勝利し、5戦全勝で単独優勝を決めた。北海道大は3勝2敗。北海学園大は、全日本大学選手権の北海道代表として11月9日、岐阜市の長良川球技メドウで行われる1回戦で東海学生リーグ優勝校と戦う。2部は、北海道科学大が北星学園大を13-12で下し、2017年以来7年ぶりの優勝を決めた。北海道科学大は最終節の10月27日、13年ぶりの1部復帰をかけて1部最下位校と入れ替え戦を行う。

第9節は10月20日、帯広畜産大グラウンドで1部の帯広畜産大-釧路公立大、室蘭工業大-東京農業大の2試合を行い、リーグ戦の全日程を終了する。

北海道大-北海学園大は、北海学園大が第2Q8分、QB成田滉佑（3年、札幌白石高）からWR八乙女凌太郎（3年、札幌東陵高）への63ヤードパスで6-0と先制すると、同11分にもQB成田滉からWR八乙女へ7ヤードパスとトライの2点コンバージョンで14-0。第4Q10分にはK水谷大空（4年、静内高）が23ヤードFGを決めて17-0とリードを広げた。勝てば同率優勝の北海道大は第2Q6分、20ヤードFGが外れて先制機を逃すと、第3Q開始早々の攻撃シリーズでも敵陣4ヤードまで迫りながらTDを奪えず、無得点に終わった。



北海学園大の高木幸樹HCは「守り勝ち。辛抱して勝てた。（TDを）1本を取られるのは覚悟で、ラン守備に的を絞って準備した。守備チームが本当に頑張った」と無失点勝



利の選手たちをたたえた。守備リーダーで、インターセプトや勝負所での連続ロスタックルと活躍したLB池原響生（4年、伊達緑丘高）は「ゴール前まで攻め込まれた第3Qは苦しい場面だったが、そこを止められたのがウチの強いところ。ロスタックルは、アサイメント通りだった」と満足そうに振り返った。2TDパスのQB成田滉は「全日本大学選手権では北海道の名を知らしめたい」と意気込み、主将のOL/DL成田陽斗（4年、東京・隅田川高）は「オフェンス、ディフェンス全員の勝利。全日本大学選手権はチャレンジャーなので、記憶に残る選手権にしたい」と決意した。



一方、北海道大の樋之本彬HCは「ゲインしてない訳では無いが、詰め切れなかった。球際の勝負に負けた。4年生はよく頑張った。この悔しさを来年に向けてほしい」と出直しに期待。主将のOL羽仁高滉（4年、東京・東京学芸大付属国際中等教育学校）は「去年の名城大戦もゴール前で止められ、今日もゴール前が課題になった」と残念がった。ラン攻撃の中心になったRB下島圭太郎（2年、神奈川・多摩高）は「ゴール前で詰め切れなかった。レベルアップして、来年は警戒されるRBになりたい」と決意し、ハードヒットを再三見せたLB荘司真輝（3年、東京・早稲田高）は「来年は勝つしかない」と雪辱を誓った。

2部の北星学園大－北海道科学大は、北海道科学大が第1Q9分、RB浅木晶斗（3年、浦河高）の10ヤードランで6－0と先制。第3Q9分にRB竹内連也（2年、札幌工業高）の10ヤードランとトライのキックで13－0とリードした。北星学園大は第3Q11分、WR/LB中田大翔（4年、北星学園大付属高）の57ヤード・インターセプトリターンTDで6－13、第4Q10分にもQB伊藤昊咲（1年、札幌月寒高）からWR/LB中田への22ヤードパスで12－13と追い上げたが、トライのキックを失敗して同点機を逃した。

北海道科学大の土屋竜馬コーチは「2、3年生のランで得点でき、準備してきたことが出来た。入れ替え戦に向け、ミス無く練習をしたい」と気持ちを引き締め、主将のOL広島拳（4年、札幌新陽高）は「人数が増え、チームに活気が出たのが勝因」と喜び、TDランのRB浅木は「公式戦で初めてのTD。味方が壁を作ってくれた」とラインに感謝。RB竹内連は「（低迷期から）ここまで帰ってきた。入れ替え戦はミスなくやりたい」と13年ぶりの晴れ舞台復帰へ力を込めた。

一方、北星学園大の北野啄夢監督は「QB、RBを1年生に頼らざるを得なかった。コーチの力不足だが、リーグ戦に参加できた経験は大きい」と来年の巻き返しを決意。主将のOL三浦健佑（4年、北星学園大付属高）は「後輩たちのポテンシャルは高いので、人数を増やして頑張してほしい」とエールを送り、QB伊藤は「一人一人が頑張り、1部に帰ります」と誓っていた。